

種と土混ぜ お団子できた



カボチャなどの種を混ぜた
土を丸める園児たち

戦した。

種ばくだんは、愛媛県出身の自然農法実践家・故福岡正信氏が考案した「粘土団子」が基。団子内部に水分が蓄えられ、乾いた土地でも植物が育ちやすくなるという。

同園では、国連が定める5日の「世界環境デー」に合わせて取り組んでいる。園児たちは自宅から持ち寄ったカボチャやピーマン、メロンといった十数種類の種と土を混ぜ合わせ、水をかけて固めながら一生懸命に作業。丸めた団子を園庭に転がし、成長を願った。

年長の湊谷麟音ちゃん(5)は「たくさん丸めて作った。スイカができてほしいな」と話した。

(下館悠々)

ハ
戸
八戸市の八戸学院聖アン
ナ幼稚園(山西幸子園長)

聖アンナ幼稚園児 植物の成長願う

の年少・年長児約30人が5日、同園で土にさまざまな植物の種子を入れた団子状の「種ばくだん」作りに挑